

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和 5 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 5 年度農作物病害虫発生予報第 1 2 号を発表したので送付します。

令和 5 年度農作物病害虫発生予報第 1 2 号

令和 5 年 1 2 月 4 日
徳 島 県

I. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5・6 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 8.0%、発病度が 0.7)。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないように十分換気を行う。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行う。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (11月1日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 11 月第 5・6 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 83.3%、寄生葉率は 14.7%と、平年(67.0%、6.7%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が 11 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が31.7%、発病葉率が1.7%)。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が24.5%、発病葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 薬液は下葉の葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.5%、寄生葉率が0.2%)。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、寄生葉率が0.2%と、平年(52.1%、6.5%)に比べて低く、被害果率が0.3%と、平年(0.6%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (11月1日付けで注意報発令中)

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「多」

2)予報の根拠

- (1)11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%、寄生葉率が58.3%と、平年(80.2%、11.1%)に比べて高い。
- (2)高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が5.0%、寄生葉率が0.1%)。
- (2)高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラナ科野菜共通

黒腐病

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)11月第5・6半旬のブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が19.9%、発病度が1.0)。
- (2)高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後にはできるだけ速やかに薬剤散布を行う。
- (2)害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も行う。
- (3)被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬のブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が62.5%と、平年(64.2%)並の発生であるが、寄生株率は6.4%と、平年(15.5%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているのので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬のブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が12.5%と、平年(24.5%)に比べてやや低い、10株当たり寄生幼虫及び蛹数は0.1頭と、平年(0.1頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏に寄生しているのので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬レタス

菌核病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が16.7%、発病株率が0.7%)。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) トンネル内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病株を放置しておくとも多数の菌核を形成して伝染源になるので、できるだけ早く処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が9.1%、寄生株率が0.2%と、平年(16.7%、0.5%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているのので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が9.1%、発病度が0.3と、平年(0%、0)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 抵抗性品種でも突然発生することがあるので、発病好適時の栽培では、薬剤の予防散布を行う。
- (3) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (5) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が18.2%、1株当たり寄生虫数が0.0頭と、平年(22.7%、0.1頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.5%、発病葉率が0.2%)。なお、発病果の発生も認めていない(平年同時期も認めていない)。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 古葉は早めに除去し、薬剤が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が23.1%と、平年(22.4%)並の発生であるが、寄生株率は1.1%と、平年(3.3%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 11月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が30.8%、寄生葉率が5.5%と、平年(41.8%、5.0%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が11月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏に寄生しているので、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

II. その他

- 1) ハウスやトンネル等で密閉保温していると、内部が多湿となり、病害の発生に適した条件となるため、晴天時の日中には換気を十分行うとともに、夜間は暖房機の温度を高めに設定して施設内の湿度低下を図ること。
- 2) 薬剤の使用にあたっては、必ず農薬ラベルの記載事項を遵守すること。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。